

北代縄文通信

北代縄文広場ボランティアの会 研修旅行記

晩秋の北陸道、若狭路に歴史を探る

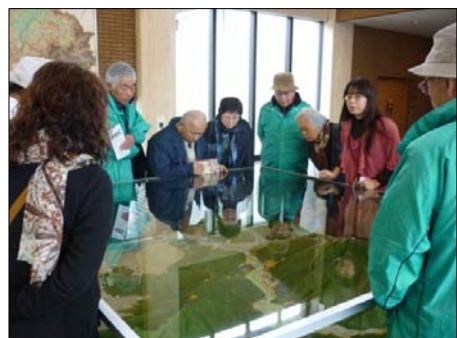
いちじょうだにあさくらしいせき とりはまかいづか わかさ こくほうじいん
～一乗谷朝倉氏遺跡、鳥浜貝塚、若狭の国宝寺院～

西村盛一

北代縄文広場ボランティアの会は、平成24年11月15日(木)～16日(金)に、福井県の一乗谷朝倉氏遺跡をはじめ、若狭三方縄文博物館、若狭歴史民俗資料館などを訪ねる研修旅行を行いました。参加者は13名(女性5名、男性8名)で少数でしたが、全員元気に無事日程をこなすことができました。

初日、北陸地方はあいにくの大雨で時々雷鳴が轟く^{とどろ}中での出発でした。最初の訪問地である一乗谷朝倉氏遺跡・復原町並では傘をさしながらの見学になりましたが、戦国城下町の遺構から忠実に復原した町並を地元ガイドの解説付で巡り、当時の武家屋敷、町屋の様子を体感しました。次に予定していた三方五湖レインボーラインの巡遊は雨で眺望が悪かろうとの判断で、急きょ計画を変更して、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館を見学しました。ここでは立派な施設に、朝倉氏の歴史、一乗谷遺跡の全体像、発掘調査で出土した遺物や復原模型などがわかりやすく展示してあり、女性学芸員さんの丁寧な解説も受けられ、かえって中身の濃い見学・研修となったように思います。

続いて今回研修の主目的である若狭三方縄文博物館へ向かいました。同館は三方湖のほとりで発掘された鳥浜貝塚の出土遺物を中心に、縄文文化の解説・展示をつうじて、より多くの人々に「縄文」に関心をもってもらうことを目指して2000年に開館したとのことでした。小島秀彰学芸員から鳥浜貝塚の概要、博物館の展示構成の説明を受け、周辺遺跡を含めた出土品(土器、丸木舟、木器・木製品、縄や編み物、漆塗りの製品、栽培植物の種子など)を見て回りま



した。いずれも縄文時代草創期～前期という古い時代にもかかわらず、実に高度なモノづくりの技術、自然適応（活用）の能力がうかがえました。また、北代遺跡での解説の際にも参考出来る多くの情報があると感じました。

見学の後、同博物館の友の会である『DOKI DOKI 会』の方々と交流する機会を得ました。この会には現在約 120 名が加入されており、森づくりの部会や縄文グッズの部会、広報部会などいくつかの部会に分かれて活動をされているということでした。北代のボランティア活動とはやや性格が異なりますが、活動に創意工夫をこらしておられることが話されました。私たちの方からは、紙芝居の現物を持参して紹介するなど活動の一端を披露したりもしました。短い時間でしたが、5 名の友の会のみなさんの誠に懇切な対応をいただき、有意義なひと時でありました。懇談に使用した広い研修室も、北代縄文広場の面々には羨ましい限りでした。壁に貼られた「野焼き」の手順解説の写真資料に気が付いた北代の仲間は「これは参考になる」とばかりに抜け目なくデジカメ撮影をしました。

博物館訪問を終えた頃は既に夕闇が迫っていて、^{はすかわ}鱒川岸の鳥浜貝塚の現地、遺跡公園に立ち寄ることができなかつたことだけがやや残念でした。

二日目は、前日とはうって変わって朝から好天に恵まれました。この日の最初の訪問は若狭一宮の^{わかさひこじんじや}若狭彦神社です。鳥居をくぐった瞬間からおごそかな雰囲気^{あか い ど}に包まれ、スギの大樹に囲まれて森閑とした参道を進んで拝殿に辿りつく^{わかさじんぐうじ}と実に清々しい気分になりました。参拝の後、同社の別当寺である若狭神宮寺に詣でました。神宮寺は奈良東大寺二月堂への「お水送り」神事で有名で、境内

の^{あか い ど}関伽井戸で手水を使って本堂へ上り、住職の話を拝聴しました。住職は本堂の諸仏に向かって柏手を打ってから着座し、寺の来歴や^{しんぶつしゅうごう}神仏習合の意味を長々と講話されましたが、寒さもあってあまり集中出来なかつたというのが本音です。しかし、この点はバスでの移動中に森会長が^{しんぶつこんごう}補足説明をされ、飛鳥時代の仏教伝来以後の神と仏の関係、奈良・平安時代に興った神仏混淆（^{ほんじすいじやくせつ}神仏習合）、本地垂迹説による寺社の変容、明治初年の^{はいぶつしやく}廃仏毀釈と神仏分離令までの歴史をわかり易く解説されて、やっとスッキリ納得できました。

次に訪れたのは、^{さかのうえのたむらまろ}坂上田村麻呂の創建とされる真言宗御室派の^{おむろ}明通寺。いくつもの石段を上って国宝の本堂（薬師堂）

に至る。寺僧の説明を受けた後、御堂に安置された^{ごうざんぜみょうおう}薬師如来坐像や降三世明王立像、^{じんじやだいしやう}深沙大将立像など重要文化財の諸仏を拝し、これも国宝の三重塔（高さ 22.3m）を背景に記念撮影をしました。山あいの境内を彩る紅葉にしばし目を奪われ、谷川の水音にも去りがたい思いがした古刹でした。

次は^{わかさこくぶんじあと}若狭国分寺跡へ。天平 13 年（742）、



聖武天皇の勅願ちよくがんによって建立された国分寺のひとつで、幾度かの災厄によって焼失した伽藍跡がらんには、現在の曹洞宗寺院が建っています。発掘調査では南大門、中門、金堂、講堂、塔の遺構を含む 218m 四方の寺域が確認されており、史跡公園として整備されていました。本堂の丈六釈迦如来坐像は東大寺大仏を思わせる御姿であり、薬師堂の木造薬師如来坐像も見ごたえのあるものでした。

お寺巡りを終えて、次に向かったのが福井県立若狭歴史民俗資料館です。同館では若狭地方の豊かな歴史や民俗文化を、「若狭のあゆみ」、「若狭の四季とくらし」、「若狭のみほとけ」の3コーナーで紹介しており、ここでも若い女性の学芸員から説明を受けました。鳥浜貝塚の発掘成果、若狭湾岸の製塩遺跡や古代から近世に至る若狭の歴史、とくに若狭の地が日本海を通じた人々の交流交易の拠点であったことが強調されていました。立派な資料館は、開館後既に37年と聞き、まだ県立の総合歴史博物館の無い富山県の後進性を思わざるを得ませんでした。

研修旅行の最後は、若狭から近江や京都に通じた若狭街道さばかいどう（鯖街道）の宿場町くまがわしゆく熊川宿です。重要伝統的建造物群保存地区として町並みが維持され、道の駅には散策マップが用意され、観光ボランティアガイドも活躍しているようでした。

今回の研修旅行は両日とも濃密な日程で、老齢のメンバーにはちょっときつかったかも知れませんが、その分大変充実したものでした。去年の能登・真脇遺跡等の史跡めぐりに続く今年の越前・若狭の探訪は、いずれも日本海沿岸の文化を深く知る上で意義深いものであったと思います。

富山県射水市大島絵本館 おおしま国際手づくり絵本コンクール 2012 入選

北代縄文広場ボランティアの会の山口 督ひとしさんの手づくり絵本「海を渡ったイカル」が、おおしま国際手づくり絵本コンクール 2012 で入選しました。富山県射水市大島絵本館では、絵本文化を通したさまざまな取組みが行われており、コンクールには国内外から 299 点の応募がありました。7月19日～8月18日にかけて大島絵本館パフォーマンスホールで開催された「入賞入選作品展」で、山口さんの入選作品も展示されました。

このたび、山口さんのご厚意で入選作品が北代縄文広場の紙芝居メニューの一つに加わりました。



イカル少年シリーズの紙芝居

小学校低学年向け紙芝居「北代縄文人のくらし」（約 10 分）、小学校高学年～中学生向け紙芝居「北代ムラのイカル少年」（約 15 分）・「海を渡ったイカル」（約 15 分）をボランティアが心を込めて上演いたします。お気軽にお申し付けください（要事前予約）。紙芝居を見て、聞いて、縄文時代を楽しく学ぼう！

復原建物(高床倉庫)修理工事

11 月から、縄文広場で実物大復原している高床倉庫の修理工事を開始しました。

オープン以来 13 年が経過し、菌などによって腐朽した主柱など劣化した丸太材の取替え、風雨や菌などによって劣化した茅の葺替えを行っています。健全な丸太材は再利用します。

建築・木材・土壌・菌・考古学の専門家の指導を得ながら、耐久性向上の対策を施し、建物の長寿命化を目指しています。

高床倉庫は、主柱の地表付近が水分や木材腐朽菌の影響を受けやすく、最も傷みやすい部分です。菌の作用で柔らかくなった木材は加害昆虫を誘引するので、この予防を最重要課題として工事を進めています。

来場者の皆さんには復原建物の見学等にご不便をお掛けすることになりますが、ご理解・ご協力賜りますようお願いいたします。広場内は、修理工事期間中も工事範囲以外は自由にご利用いただけます。工事を行っていない復原建物はこれまで通り見学可能です。



高床倉庫に葺かれた茅を除去した状態
—腐朽・虫害が進行した丸太材等を取替えます—



腐朽した主柱の取替状態（途中経過）
—取替材のほか、再利用する主柱にも多様な耐久性向上策を施し、排水性の良い山砂で埋戻しました—

★ 北代縄文広場ホームページ

<http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/index.htm>

北代縄文通信 第 35 号：編集・発行 富山市教育委員会 埋蔵文化財センター